

◎令和元年度

第5回東大和ボランティア・市民活動センター運営委員会の報告

南街・桜が丘地域防災協議会本部

令和元年度 第5回東大和ボランティア・市民活動センター運営委員会が開催されました。
運営委員会委員(災害ボラセン協議会の区分から参加)として出席致しましたので、ご報告致します。

記

1. 日時 令和元年12月6日(金) 18:30~21:00
2. 場所 東大和市社会福祉協議会
3. 内容

(1)委嘱状伝達

前回欠席の委員に委嘱状を伝達。

(2)国立市ボランティアセンター運営委員会を視察して

(視察した各委員の感想)

- ・活動をしている人を応援してくれる機関。(例:印刷機を安く使える。)
- ・国立カルタのような独自の取り組みがある。
- ・子供たちを巻き込む取り組みがある。(東大和でも夏ボラ)
- ・こども食堂(「たまご食堂」、車いすバスケットなどの取り組みがある。

(3)広報誌「たまボラ」について

2月号は新聞折り込みで全戸(新聞購読の家)配布の予定。

記事内容は、①災害②NPO③福祉教育などを想定。

来年4月号より、各運営委員で記事を分担(次回2月の運営委員会で各自の記事案を披露。)

(4)ボランティア講座について

今年度は3月実施予定。

ボランティアを始めてみようと思う人の、きっかけ作り。

前回中止になった環境編を行ってはどうか。

(空堀川を考える会、狭山緑地雑木林の会、東大和エネルギーの会)

(5)運営委員会委員の欠員について

「ボラ・NPO」と「企業・農商工」の枠で欠員。候補を打診する。

(6)事業の報告・今後の予定

- ・10/17(木) 歩こう会(秋)

若干参加者が減少。イベントに対する警察の協力は得られている。

- ・10/18(金) 福祉教育(二小4年生) 車いす体験

- ・10/30(水)と11/6(水) 福祉教育(四小4年生) 点字と手話体験

東大和市で唯一の聴導犬の活動ぶりを見れた。

- ・11/10(日) 福祉祭～福祉標語表彰～

- ・11/29(金) 福祉教育(六小4年生) 車いす体験

毎年実施。

- ・12/2(月) 福祉教育(八小4年生) 点字、手話、車いす体験

昨年配布のパンフレットによる実施依頼。

- ・1/25(土) 災害ボランティア体験訓練(※1、P2にパンフ)

運営委員にも被災者役を担当してほしい。

- ・2/7(金) 登録者研修会

防災をテーマ(「イザ!カエルキャラバン」)で実施。

(7)その他

- ・日本レクリエーション協会のレクリエーション公認指導者養成講座の一部、「レクサポーター」(3時間の1回講座)を実施したい。

- ・鋸南町(千葉県)災害ボラセンへの支援報告

台風15号により膨大な被害を受けた鋸南町の災害ボランティアセンターに、東大和市社協からも運営支援に赴いた。(※2、P2に報告記事)

次回委員会 2月13日(木)18:30～

(※1) 災害ボランティアの募集

○訓練のながれ（災害ボランティア役（市民の皆さん）が行うこと）

○13:00 災害ボランティアセンターについての説明（自由参加）

○13:30 ボランティア受付
13:50 オリエンテーション
マッチング（ボランティア活動の紹介）、送り出し

↓

被災者（役）のお宅または避難所（想定場所）へ移動
ボランティア活動を体験

↓

ハミングホールへ戻り、振り返り。

↓

○16:30 講評・閉会

定員
70名

※市民の方にはボランティア役として訓練に参加していただきます。

○災害ボランティアセンターとは？

地震などで被災し、助けを必要とする人と、ボランティアとして被災地の支援をしたい人をつなぐ機関で、災害時に臨時的に設置されます。被災地域が少しでも早く元の生活に戻るため、市民の皆さまの災害による「困りごと」にボランティアとともに対応します。

【お願い】

- ◆動きやすい服装でご参加ください。飲み物は各自ご用意をお願いします。
- ◆ハミングホールからボランティア活動先（市内各所）には自転車又は徒歩での移動となります。

会場までのアクセス

(※2) 鋸南町災害ボラセンへの運営支援報告(「たまボラ」10月号 2019VOL.21 に記事)

千葉県鋸南町災害ボランティアセンターの運営支援の報告

先月の台風15号により膨大な被害を受けた千葉県の鋸南町の災害ボランティアセンターの運営に係わり、東京都内の社会福祉協議会の方たちと一緒に支援に行ってきました。

町に著くとブルーシートが屋根にかけてある家が見え、被害の大きさと台風の威力の強さを目の当たりにしました。

災害ボランティアセンターには被害に遭われた住民の方より、ボランティアに来てもらえないかという相談が多くきていました。鋸南町は高齢化率が40%以上と高い地域のため、ボランティアによる力は必要不可欠であることを実感しました。東大和市でも、災害ボランティアセンターに関する周知等に力を入れて取り組んでいき、いざという時の災害に備えていきたいと思えます。

レポート 東大和市社会福祉協議会 山崎

以上